

human

No258

2013/10

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「さくら荘の日々草」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (0587)95-8900
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

葬式の夢

大森 澄雄

他人の葬式のことではない。現に生きている、私自身の葬式の夢である。一度だけではない。三度も見たのである。初めの二回はモノクロ、最後はカラーであった。私は、いうまでもなく棺の中にいたが、外で私の柩を送ってくれる人たちは、老いも若きも、派手な着衣であった。赤もあり、青もあり、黒もあり、白もありといったふうには、色とりどりであった。声は聞こえなかった。埋められた場所は、県道から可成り入った松茸山であった。棺が穴の中に置かれた時、

ハッと目がさめたのである。

これが、私の葬式について見た最後の夢であった。不自然なことが全く自然の事のように見える。それが、夢の夢たる所以^{ゆえん}であろう。

この夢の話を、暫く経ってから母に話すと、「気にしているの」と聞いた。私が「ううん、なんで見たのかわからん」と応えようと、母は「どんな重い病気になっても長生きする人は長生きする。生きることには強い意欲を持たなければあかんよ」といった。

十八歳で肺結核になった時に、短いかも知れないが、悔いのない生涯を送ろう。そして、医師の注意を守り、神頼みは決してしないことに決めた。それ以後私は一度も神頼みをした

ことがない。

父には、この話はしなかった。なぜなら、私の生まれる三年前の昭和三年に、当時旧制中学の四年生と二年生の二人の弟を粟粒結核という恐ろしい結核で亡くし、結核には大変神経質になっていたからである。

このカラーの葬式の夢を見たのが二十歳の年で、翌年に三年遅れて私は大学に入ったが、大学に行きたいといった時、父は大反対であった。父の頭には、やはり肺結核という病気への恐れが、強くこびりついていたのは明らかである。しかし、母が「死ぬ者は死ぬ、生き残る者は生き残る。それが運命というもの。この子が生き残っ

た時、後悔しないように大学にやったらどう」と口添えをしてくれた。父はとうとう折れてくれた。ただし、「わが闘争―マヒとの戦い―」の中に書いたような条件で。カラーの夢の話を私は母にしておいてよかったと思った。

カラーで葬式の夢を見たのを境に、私はぶつくりと私の葬式の夢を見なくなってしまった。半世紀以上、一約六十年になる。その間に、私の生命の危機は二回あった。

一回目は、昭和六十年の五月のことであった。東京で発病したが、新幹線に乗って帰ってしまった。浜名湖の鉄橋を渡っている時に左手に触ってみると、氷のように冷たかった。無

茶なことをしたと思ったが、もうどうにも仕様がなない。江南駅に着くと家にも寄らずにさくら病院(注・当時の名称は大口クリニックス)に直行した。当直の内科のY先生に診察してもらった。発病の経緯を話すと、「無茶なことをしてはいけません」と強く窘められた。夜には、脳外科のY先生に診察してもらった。病名は脳梗塞であった。

三日目に院長さんが回診にいられた時病状はほとんど底であった。「復職できますか」と尋ねても、「わかりません」という返事だった。院長さんは、私を見放しているかと判断した。この話を先日院長さんにしたなら、「意志の強い人と思っただけの本当のことをい

つたんです」といわれた。四日目から徐々に良い方向に向かったが、それから十日程して私の看病(注・当時のさくら病院は完全看護ではなかった)に来院した家内の母がある晩寝付が悪かったので翌朝にこの話をすると、ただ笑って何も応えなかった。私が退院してしばらくしてから私の家に来た家内の母は、「あの時は志う子(家内の名前)が寡婦になるかと思うとよく寝られなかった」とほっとした顔をしていった。

二回目は、平成二十三年十一月から同二十四年三月にかけてのことで、この冬は大変寒かった。透析の時に、途中で血圧がスドンと落ち、寒気がし、冷や汗が出始め、目眩がし、最後には吐くといった状態となり、透析はできても、除水のできない日がよくあった。

ある日の診察の時透析担当の先生に、透析をするために血管の縫い合わせをしてもらった先生から「血管はいいが少し細い」といわれたと話したところ、「あなたの心臓も普通の人より小さい」といわれた。私は早速薬局に行った。小さい貼るカイロを買ってきて、次の透析の日から心臓近くの背中の下シャツに貼って通院した。去年の十一月から今年の三月までの間の透析の時には、一度も異常の起きたことがなかった。カイロは、い

うまでもなく寒さのため

の筋肉の収縮を少しでも弛めるために使ったのである。

なお、去年の透析では、主に心臓の悪い人を中心に何人かの人が亡くなっている。

が、今もって分からないのは、若い時になぜあんなに自分の葬式の夢を見たのであるかとういうことである。自分では十八歳の時から吹き切れた死生観を持っていると自覚していたが、本当はふっ切れていなかったのだろうか。それとも、ふっ切れていたために夢の中で自然にパロディ化していたのであるうか。


 ごあいさつ

脳神経外科 山本 優

このたび、みなさんと一緒に仕事をさせて頂くことになりました山本 優(やまもと ゆう)と申します。脳卒中脊椎脊髄センターの常勤医として勤務することとなりました。よろしくお願ひ申し上げます。

何を書こうか迷いました。最近気を付けている食事方法の、ローカーボ食についてお話ししたいと思います。ローカーボ食とは糖質制限食、低炭水化物食を指します。

カロリーは制限せず、脂質を多く摂り、炭水化物・糖質を含む食品を除外するということになるそうです。一部では糖尿病患者やメタボリックシンドロームなどの食事療法に使われることもあるようです。制限の方法などいろいろとあるようですが、私が行っているのは、はっきり申しまして、ローカーボ食と言えないぐらいのかなり緩い(あるいは怠慢だと思われるかもしれませんが)ローカーボ食であり、夕食は炭水化物をなるべく摂らないという事だけです。今のところ自分にはこれでいいと考えています。細かいことは気にしません。もちろん、細かい手術はすごく好きで、得意です、脳神経外科医なので。私の目下の目標は腹囲を減らすことだけですが、治療の一環として厳格に行った場合、ローカーボ食は血糖値やHbA1c、体重などを短期間に下げる効果が結構あるようです。その反面、ローカーボ食にはいろいろな問題があるようです。ハイカーボ食とローカーボ食の群を長期比較検討した大規模コホート研究では、逆に総死亡数(癌死や心臓脳血管死が増える)が有意に増加していたとの報告があります。制限の程度(厳しすぎるのはダメ)や、代わりに摂取する脂肪・蛋白(動物性脂肪・蛋白よりも植物性脂肪・蛋白が良い)などの関係が重要な事のように思えます。このような報告からすると、ローカーボ食は短期的にはいいように思えても、長期的にマイナス面があることが示唆されるので、実践を考えている方は、本当にそれが必要かどうか、ある程度の正しい知識を付ける必要があるようです。細かいことは書きませんが、こういったことを踏まえると、私が行っている夕食だけの緩やかローカーボ食、というのもある程度の効果が期待できると思います。

略歴:三重大学医学部卒業、公立陶生病院、社会保険中京病院、名古屋大学医学部附属病院


 ごあいさつ

広報課 主任 加藤 香

はじめまして加藤 香と申します。

7月18日付けでさくら総合病院に入職させて頂き9月1日より広報課に所属しております。

広報課は、「対外的機能」、「調整機能」、「実施機能」の3つの機能を集約します。地域・社会に接して情報を受発信し、地域・社会と法人との間に発生する諸問題を調整し、医療法人医仁会・法人全体の経営戦略に沿った広報活動を実施します。

私は、歌舞伎愛好家そしてワイン愛好家です。

歌舞伎は、他の演劇と比べて舞踊、セリフ劇、音楽劇など多くの要素と特色を持ち合わせており色、形、音の様式性と人間の葛藤、情念の激しさや美しさを表現する演劇です。

ワインも一本の瓶の中に優雅さ、華やかさ、激しさがなどの多くの要素が含まれています。まずは、「美味しい」と賛美し、それは深い感動を伴って「美味しい」と感じ「何らかの感性」を持ち合わせることによって発することが多いのです。

和の文化の歌舞伎と西洋の文化のワインはかけ離れているようですが「感性第一」といった共通項があります。

私も多くの経験で得た自らの感性を常に研ぎ澄まし、社会の様々な問題や現象や傾向を分析し解釈して仕事に活かしていきたいと考えます。

困難な課題であっても「出来ない課題を探す」ためにエネルギーを使うのではなく「実現の可能性を探す」ことに知力とエネルギーを使い法人の発展に尽力する所存です。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

* さくら荘に入職して *

さくら荘 デイケア ケアスタッフ 堀川 明美

朝7時5分に家を出発し、約20分の道のりを自転車で通います。田植の時期にはカエルの鳴き声を聞きながら、また朝の爽やかな風を感じながら自転車をこいで通勤したこともあります。今年の夏はとても暑くさくら荘での仕事が始まる前にひと汗かきます。こんな生活が早くも3ヶ月以上経過しようとしています。前職のデスクワーク中心の仕事から一転、この業界での経験ゼロで入職し、予想していたよりもはるかに肉体的、精神的に大変な職場であることを実感する毎日です。

トイレ介助の際、利用者さんの残存能力を考慮せずに介助しすぎたこと、利用者さんが話す言葉が理解できず何度も聞き返したあげく他のスタッフに代わって聞いてもらおうと、なんと私に「ありがとう」と言って下さっていたことなど、失敗と驚きの連続です。しかし嬉しい出来事もあります。あまり普段会話をされない方が、送迎の車中でラジオの音楽に合わせて突然歌い出された時、こちらからの話かけで利用者さんが笑顔になられた時、こんな時には幸せを感じます。

利用者さん一人一人にあった介護が出来るように、利用者さんの心に入っていけるように、そして自分なりのやり方が見つかるようにがんばりますので、先輩方どうか私に厳しくも愛のあるご指導よろしくお願い致します。

第29回 「健康を守る教室」

- テ - マ : 『インフルエンザの予防』&セラバンドを使用した体操
 日 時 : 平成25年10月26日 土曜日
 13:00~14:00 (受付12:30~)
 場 所 : コンドル館1F ロビー
 講 師 : 検査技師 中條 恵梨子
 参 加 料 : 無料
 お問合わせ : 受付窓口もしくは医療連携室
 Tel 0587-95-0015



今年も残すところあと3か月となり、インフルエンザの季節が近づいてきました。当院でもそろそろ予防接種が始まりますが、実は予防接種を受けたからと言って絶対にかからないというわけではないのです。

どうして予防接種を受けたのにインフルエンザにかかってしまうのでしょうか？それにはちゃんとした理由があります。その理由をきちんと理解したうえで正しい予防法を行い、インフルエンザの感染から自分の身を守りましょう！

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。ご希望の方はお申し出下さい。 黄色(弱)400円 緑色(中)460円 青色(強)520円

